◆テーマ：臨床指導者と共に取り組む多重課題演習
◆カテゴリー：教育方法（演習）
◆学校概要：横浜市病院協会看護専門学校　横浜市港南区港南台 3-3-1　　看護学科　80 名　3 年制
◆内容：看護の統合と実践　「看護における医療安全」の中の多重課題演習（3 年次、11 月～12 月頃）

【ねらい】多重課題・時間切迫という状況下で、自分の能力の限界・行動の傾向を知ることができる。また事故防止や倫理的配慮の観点から自己の行動を振り返り、看護を提供する上での優先順位の判断や応援の必要性について考えることができる。

【方法】
①看護師役の学生が病室（2 人部屋）に援助を行う目的で訪室するが、そこで起こる想定外の状況に遭遇して対応する。（担当する事例に関しては、演習当日に発表あり）
②2 人部屋の事例については事前に提示し、観察や対応ができるよう学習しておく。
③臨地実習施設の臨床指導者が患者役として参加し、リアルな臨床現場の状況を再現してもらう。
④2 人部屋のもう 1 人の患者役は学生が行い、観察者役の学生は演習場面を観察しシートにメモする。
⑤1 事例終了ごとにリフレクションを行い、それぞれの役割から意見を述べあう。
⑥全ての演習終了後に、演習を通しての学びをグループ全体で話し合い、学びを共有する。

【学生の学び・感想】
・優先度を瞬時に考えて行動することの難しさを知った。
・起きてしまった後の対処行動も大切だと感じ、1 人でできることなのか、応援を求めるべきなのを考え、迅速に行動することが大切だと思った。
・ただ声かけをするのではなく、相手の状態を把握した上で対応しなければいけないことを学んだ。
・応援要請の際にも、短時間で的確な情報を伝えることの難しさを学んだ。
・リアルな臨床現場がイメージできた。



【教員の感想と演習の効果】
・想定外の出来事への対応を経験し、リフレクションを通して自己の傾向に気付くことができた。
・現場の臨床指導者の参加により、リアルな臨床現場をイメージすることができ、具体的な対応方法等を理解することにつながった。
・臨床指導者も学生のレディネスの把握につながり、これから現場で働く新人看護師の指導にも役立つのではないかと推測する。臨床現場との顔の見える関係作りができ、今後の臨床実習においても有益であると考える。

医療安全チーム代表：伊賀恵美

